

# 山形県スポーツ少年団

# 大空に翔る

平成24年 2月発行  
No.28

発行  
(財)山形県体育協会  
山形県スポーツ少年団  
山形市松山 2-11-30  
☎(023) 625-5750  
<http://www.yamagataken-taikyo.or.jp/>  
印刷 (株)大風印刷

## 支部だより



村山支部指導者研修会  
兼北村山地区指導者研修会 (村山支部)



置賜地区スポーツ少年団リーダー研修会 (置賜支部)



スポーツ少年団認定員養成講習会  
兼スポーツリーダー養成講習会 (最上支部)



第47回山形県スポーツ少年大会  
兼平成23年度ジュニア・リーダーズスクール (庄内支部)

少子化に歯止めがかからず、また、社会の変革とともに、子どもたちを取り巻く環境も日々変わっているなか、スポーツ少年団に対する期待は大きなものがあります。皆で知恵を出し合い、目標に向かってがんばっていきましょう。おわりに、子どもたちのために年間を通じて、指導されている指導者の皆さんの日頃のご労苦に感謝を申し上げますとともに、これからも健康で更なるご活躍を祈念し、ごあいさつとします。

さて、日本スポーツ少年団は「一人でも多くの子どもたちにスポーツの喜びを与え、スポーツを通じて、少女のからだどころを育てる組織をつくろう」との願いから、昭和三十七年六月に創設されて、今年六月で五十年を迎えます。そして、山形県スポーツ少年団も翌、平成二十五年には五十年を迎えます。

平成二十三年五月より、梁瀬吉弘前本部長から引き継ぎ、本部長を仰せつかりました村田久忠です。皆様方のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。



山形県スポーツ少年団  
本部長 村田 久忠

ごあいさつ

益々の充実と発展を祈って



山形県スポーツ少年団

前本部長 梁瀬 吉弘

私がスポーツ少年団にお世話になったのは、三十九年前の昭和四十八年四月のことで、当時は、県体育保健課長の河田利夫氏が県本部長で、三二二団一〇、八五五名の登録ながら、現在の様な登録料の負担はなかった。

日常の活動は、それぞれ地域で活発に行われ、県本部では、活動費を補助しながら活動を推進していた。

やり過ぎを指摘されるのはなかった。県本部・七支部・各市町村本部といった体制で、県本部事業は、委託事業として、社会体育主事や指導者協議会の方々や市町村担当者が主体となり、現在の様なローテーションで、主として、県内の団員交流と集団宿泊訓練を目的にして、野外活動が活発に行われていた。

このころ、中央指導者講習会で、講師の酒井先生が、学校教育活動と違った、第二の学校活動として、スポーツ少年団活動を強調されていたことが、大変新鮮で強烈な感銘を受けた。

学校や企業を基盤にして、競技的に勝敗を懸け競いあう、競技スポーツと

並行して、日常生活の中で実践し、生活を豊かにする生涯スポーツや、みんなのスポーツといった提言がなされ、モーニング野球やナイターバレーボール、或いはサッカー等々、各競技種目での大会や

ニュースポーツやトリムとかオリエンテーリングといった耳新しい大会が受益者負担で盛んに開催され、スポーツの一般化が急速に進められていった。教育事務所単位に県民スポーツ大会が開催されたり、昭和四十九年に鶴岡市を会場として、県内四十四市町村にバスを配車して動員し、当時の総理府主催の体力づくり全国大会が開催された。このような傾向に呼応した、スポーツ活動を通しての健康づくりや地域活性化の多様な方策にやり甲斐を感じ、意欲を燃やして取り組んだ。

私自身、松陵ミニバスケスポ少を指導し、昭和五十五年三月に鶴岡市で開催された全国大会に、娘と一緒に参加したのは懐かしい思い出である。

日本が高度経済成長期に入り、人々が生活に豊かさを求めた時代だったと思っている。

昭和五十年代に入ってから、県議会で国体の本県開催が議論されていたようであり、昭和六十二年に日体協理事会で内定を受け、本県の国体開催への取り組みが本格的に始まった。

県の小学校体育連盟連絡協議会が発足し、近隣或いは市町村単位で、陸上や水泳を中心に大会が開催された。

この年、第一回県少年少女スポーツ交流大会が山形市で開催されたが、現在も「べにばな国体記念」山形県民スポーツフェスティバルとして継続され、今年度で十九回を数える。

本大会は、トップを競うのでは無く、広く参加の門戸を開き、子ども達や指導者に緩やかに競い楽しむ中で、多くの示唆を学びあう貴重な大会として評価をし大事にして来た。

運営で御苦労が多いと思うが、本部が拘わる競技大会として今後も継続していければと思っている。

国体開催成功への機運にのって、子ども達のスポーツ少年団活動への関心も大いに深まり、平成元年には最高の九三三団・三一、三〇九名の登録がされている。県民が丸となり、県内全市町村が集結して成し遂げた、国体の成功に貢献出来たことは大変有意義であった。

国体後、平成十五年に行行政組織の変更があり、本部組織が七支部から四支部体制になる中、原田前本部長を先頭にして同年の剣道全国交流大会、そして、平成十八年の第四十四回全国スポーツ少年大会と引き続き開催し、後者は、施設の関係で二カ所分散宿泊という困難を克服して行い、全国参加者

から喜ばれる成功に導いたのは、行政・本部役員関係者初め、リーダー会や指導者の方々のご協力の賜物で山形県スポーツ少年団が誇りにしていただけるものと思っている。

私が、平成十九年から二期四年、本部長を担わせて頂きました。県体協初め県スポ少本部役員・指導者の方々にご協力ご指導頂きました。本当にお世話になりました。衷心より御礼申し上げます。

さて、昨今はグローバル化が進み、社会や環境が著しく変わり、息苦しくなってきたように思います。スポーツ活動の主旨は、選手を養成するのではなく、発展途上の青少年を、次代を担う有意の人材に育てようとする営みです。多くの青少年にスポーツの喜びを・スポーツを通して心とからだの健全育成を・多様な年齢の団構成と地域定着を・の理念や意義は、この基点を表現したものだと思えます。厳しい環境の中で組織改編や自主・自立の活動を探る事が求められていくと思えます。東日本大震災へのスポーツ選手への義援金やボランティア活動やなでしこジャパンの活躍は、被災地の方々には勿論、他の多くの人々にも、大きな感動と夢や勇気を与えてくれたのではないのでしょうか。

山形県スポーツ少年団と指導者の皆様の益々のご発展をお祈り致します。

平成二十三年度山形県スポーツ少年団

指導者・育成母集団研修会開催

普及委員会委員 佐藤 俊次

今年度の研修会は十一月十九日(土)酒田市飯森山の酒田市公益センターで参加者一四〇名で開催された。この研修会は指導者の資質向上と育成母集団の活動の現況や問題点を出し合って相互交流を深める事を目的として、庄内・最上・村山・置賜の四地区の輪番で実施されており、今回は庄内が当番となっていた。会場の公益センターは東北公益文化大学構内であって、収容六五〇名の講演等の多目的ホールで設備も完備されている。

研修会に先立って日本スポーツ少年団顕彰の伝達式が行われ、団体表彰として西川町スポーツ少年団、個人として寒河江市の遠藤啓一氏、鶴岡市大山の鈴木実氏、酒田市八幡の兵藤清彦氏が村田県本部長より表彰を受け、西川町スポーツ少年団の高橋勇吉氏が謝辞を述べた。

研修会では、来賓の庄内教育事務所社会教育課長の齋藤圭一氏より、子供達の指導に当たられている指導者の方々に感謝の意を表された。又、漢字の「遊」と「遊」の文字を揚げられ、子供達の活動はおもしろく楽しい事が不可



欠であり、それが生涯スポーツへの第一歩になる事に留意して欲しいとの挨拶があった。基調講演は、岡山県



の川崎医療福祉大学健康体育学科の米谷正造教授を講師に、「こころとからだを育む遊びとスポーツ」というタイトルで講演があった。教授はその中で、小さい頃にスポーツを楽しんだ人とならない人とは成人になった時にその動作が総じてぎこちなさが生じることとの例を挙げて説明された。大人と子供とはスポーツをやった時どういう場面に楽しいと感じるかという事について、大人では勝った、記録が上がった等結果を重要視するのに対して、子供では思いっきりできた、早く走れた、友達と同じことがやれた、わくわく感があった等、今やっている事自体を楽しいと感じているというデータを示して、更に子供達には今やっている事を変化させて楽しむ能力が備わっており遊び始めるととてもいい顔をしてくるという。

子供達が感じる楽しさには、わかっているようになる楽しさ、運動欲求として身体を動かす楽しさ、他の子供達と係わる中で集う楽しさがあり、それらは全て遊びの中に存在している。その例として雪合戦を挙げられ、寒い

外で縮こまっていた子供達が熱中してくるにつれ寒さを忘れて、「ヤッター」と興奮している。これが子供達のスポーツを楽しんでいる姿と話された。最後にスポーツ少年団を小学校の卒業と共に退団という風潮があるが、せめて小学校の部終了という形を取って欲しいと結ばれた。

実践発表の部では、村山市の戸沢スポーツ少年団大地広美氏が「未来にはばたけノンキな子供達」と題して、来年創立五十周年を迎えるノンキーズ野球スポーツ少年団の今までの経過の紹介と現在の戸沢スポーツ少年団の現状と問題点が発表された。その中で団員は、二つの小学校から募集している。現在十九名で他種目と掛け持ち団員を含めても減少傾向にある。指導者については六名いるが高齢化しており、若手の指導者は勤務の都合で日曜日の練習にも出られない人もいて、更なる指導の育成も必要になっている。育成母集団の活動は、飲物の準備をやっている。連絡網は携帯電話のメールを使って全団員保護者へ同時配信している。一年一度の母親チームとの交流試合が企画されコミュニケーション作りにも役立つというとの報告があった。

第二実践発表では、酒田市平田の平田小学生陸上スポーツ少年団の齋藤淳氏より「スポ少難民を救え！」とのテーマで発表があった。この団は、平成十五年創立で小体連



の陸上競技大会や市町村対抗駅伝で地区から出場した選手の成績不振が続いたために、ジュニア世代の組織的指導が必要だと感じて組織された。活動方針は陸上競技を通して、運動を楽しむながら、健康維持増進や走力レベルアップを図っていく事。異年齢の子供達が一緒に活動する中で仲間と共に練習する楽しさから協調性を育てていく事。保護者、OB等幅広い世代にわたって陸上競技を楽しめる受皿になって、将来の総合型地域スポーツクラブへ繋げていく事が唱われている。球技のクラブでは集団活動が伴うためそれを苦手とする子供でも、走るだけの運動という陸上競技ならではの側面を生かす事で、参加して身体を動かしたいという欲求を満たしてやる事があった。練習時間は毎週日曜日の午前中一時間三十分と短く、平日は不定期に月二から三回、午後五時から六時三十分となっている。練習内容はウォーミングアップから始まり、鬼ごっこやエンドレスリレーを含めた本練習を一時間、天候や練習会場に応じてプログラムを決めて実行している。運営は指導者が行っており、指導は団員の発達段階に合わせて運動強度や練習会場を設定している。子供達の本能的に走りたい気持ちをリレーやゲーム化で引き出している。その結果入団希望者が多く、一時、六十名を超えた。

の陸上競技大会や市町村対抗駅伝で地区から出場した選手の成績不振が続いたために、ジュニア世代の組織的指導が必要だと感じて組織された。活動方針は陸上競技を通して、運動を楽しむながら、健康維持増進や走力レベルアップを図っていく事。異年齢の子供達が一緒に活動する中で仲間と共に練習する楽しさから協調性を育てていく事。保護者、OB等幅広い世代にわたって陸上競技を楽しめる受皿になって、将来の総合型地域スポーツクラブへ繋げていく事が唱われている。球技のクラブでは集団活動が伴うためそれを苦手とする子供でも、走るだけの運動という陸上競技ならではの側面を生かす事で、参加して身体を動かしたいという欲求を満たしてやる事があった。練習時間は毎週日曜日の午前中一時間三十分と短く、平日は不定期に月二から三回、午後五時から六時三十分となっている。練習内容はウォーミングアップから始まり、鬼ごっこやエンドレスリレーを含めた本練習を一時間、天候や練習会場に応じてプログラムを決めて実行している。運営は指導者が行っており、指導は団員の発達段階に合わせて運動強度や練習会場を設定している。子供達の本能的に走りたい気持ちをリレーやゲーム化で引き出している。その結果入団希望者が多く、一時、六十名を超えた。



## 山形県スポーツ少年団 リーダー会紹介



皆さんもスポーツ少年団で様々なスポーツ活動をしていると思いますが、スポーツ少年団の団員は、ほとんどは小学生だと思えます。しかし、中学生以上も団員として活動し、スポーツ以外の交流活動なども行っている団もあります。スポーツ少年団では、中学生以上の団員を「リーダー」と呼んでいます。

スポーツ少年団によって、はあらかじめ参加できる人が小学生だけであったり、中学生からは部活動が始まるのが理由の一つだと思いますが、スポーツ少年団は小学校で卒業し、小学生だけが活動するところと、思っている人が多いと思います。また、全てのスポーツ少年団に中学生以上のリーダーがいるわけではありませんが、リーダーという活動があまり知られていないために、小学生で卒業してしまうのだと思います。

動が楽しくなるよう、指導者と団員とのパイプ役や、先輩という立場で小学生の団員と一緒に一つの目標に向かっていけるよう、団をまとめる人を言います。



私たちは、スポーツ少年団の中でリーダーという役割を持って活動しています。リーダーとはなんだろうと不思議に思う人がいると思います。リーダーは、イメージとしては指導者より団員に近い存在のお兄さん、お姉さんといった感じで、スポーツ少年団の活

動が楽しくなるよう、指導者と団員とのパイプ役や、先輩という立場で小学生の団員と一緒に一つの目標に向かっていけるよう、団をまとめる人を言います。

スポーツ少年団は、交流活動も行っている団体があると始めに説明させていただきました。ただ、スポーツ少年団の大会には競技をしない交流大会があり、全国や世界の仲間との交流活動、学習活動なども行っています。スポーツ少年団に競技ではない大会があるのは、生涯ずっとスポーツを楽しく活動していくことと、競技力向上ではなく、スポーツを通じて心と身体を成長させることを一番の目的としているからです。

私たち「リーダー会」は、そんなスポーツ少年団で活動している高校生や大学生が、スポーツ少年団活動をもっと楽しみたい、スポーツが大好きで将来スポーツ指導者を目指したい、自分の長所を伸ばしたいなど、様々な思いを持って人たちが集まった会です。仲間とともに、楽しいスポーツ活動をするため、また、より良い指導者になることを目標にしています。



主なリーダー会の活動は、山形県少年大会（交流大会）、ジュニア・リーダーズスクールなどのスポーツ少年団が開催している事業の運営補助、また、リーダー会

の研修会や北海道・東北ブロックなどのリーダーについて学ぶ研修会に参加します。交流会の運営補助は、リーダー会がメインで活動するところは企画から、準備、運営まで行います。実際運営するまでは、大変なことも、不安なことも多くありますが、参加者の皆さんから「楽しかった」「あんなリーダーになりたい」と言われた時は、これ以上ないやりがいを感じますし、多くのことを学ぶことが出来ます。また、同じ目的意識を持つ仲間たちが全国におり、そんな仲間とネットワークを作ることが出来ます。ネットワークを活かして、様々な人と話をしたり、一緒に活動したりすることで、自分自身の視野が広がり、人間として成長する事ができます。さらに、ドイツとの交流会に参加すると、仲間のネットワークは世界中に広がります。三週間のドイツでの生活をきっかけに、ひと回りもふた回りも成長して帰って来ることが出来ます。学校や部活動だけでは決して味わえない社会経験がリーダー会活動の最大の魅力で、リーダーであり続けたいと思う理由です。

県内にはジュニア、シニアリーダーの資格を持った人がまだ少なく、もっと多くの団からリーダーを目指す中学生、高校生が増えることを願っています。ぜひ私たちとリーダー会を活動してみませんか？

山形県スポーツ少年団  
リーダー会会長 山田都茂美



町本部としても、年二回の体力テストの実施や外部講師を招いてのストレッチ講習会、救命救急講習会等を企画し、団員間の交流、指導者の資質向上を目指した活動を展開している。

スポーツ少年団は、子どもが地域でスポーツ活動を行う場として、最も身近な存在である。幼少期からの基礎体力づくりや心の鍛錬を培う場として、本部・育成母集団・指導者間での緊密な連携を取り合いながら、より多様な活動を展開し、豊かなスポーツ環境づくりに努めていきたい。

市町村の動き

小国町スポーツ少年団本部事務局

小国町スポーツ少年団は発足から三十年余りが経過した。現在、団員は二五五名、少子化が進む中、団員数は減少傾向にあるが、加入率は三七%と県内でも高い水準を保っている。このことは、地域住民のスポーツに対する意識の高さを推し量ることができる。

そのような中で平成二十二年二月に設立された総合型地域スポーツクラブ「おぐにスポーツクラブYui」は、今年度より「Yuiキッズスポーツ少年団」を立ち上げ、活動している。取り組みの内容は、単一の競技種目にこだわらず、各競技団体から指導者の協力をいただき、サッカーやバスケットボールなど多様なメニューを団員に提供しているのが特徴だ。



# 単位団紹介

月山スキースポーツ少年団(西川町)

代表指導者 黒坂 好春

月山スキースポーツ少年団は、「雪と緑と太陽の町」西川町の町民スキー場をホームグラウンドで活動しています。雪という大自然の中で、風をきり斜面を滑り下りるスキーの楽しさや面白さを、そして滑る速さを競う競技スキーの醍醐味を味わっています。

今年、小学二年生から中学一年生まで幅広い年齢の団員十八名が参加し、互いに競い合い、協力し合いながら、練習や大会に参加しています。毎年各種の大会で好成績を収め、全国大会やジュニアオリンピックに出場する選手も出ています。

競技スキーは、一人ひとりの頑張りや結果に繋がる個人競技ではありませんが、練習や大会への参加は、決して個人でできるものではありません。練習コースにポールをセッティングしたり、荒れたコースを整備したりすることは、全団員が協力することはもちろん、指導者や保護者のサポート体制が整わなければできません。

当少年団では、ライバルや自身身に負けない強い心、互いに声をかけ合い支え合う心、そして支えてくれる周りの人々に感謝する心を大切にしながら、今年も楽しくスキーに取り組んでいきます。



# 肘折スキースポーツ少年団(大蔵村)

代表指導者 越後 享



三十五年前、県中学スキー大会クロスカントリー競技男子で肘折中学校から初めて優勝者が誕生し、これを機に肘折スキースポーツ少年団が結成されました。そして、スポーツの活躍の場を増やし、県内から多くの選手が集う大会を開催したいという思いから肘折スキークラブ協力のもと「肘折春スキー大会」が開催されるようになりました。スポーツはクロスカントリー競技を中心に肘折春スキー大会と共に発展、多くの全国大会出場者を輩出し、七百名を超える県内最大規模の大会として現在に至っています。

しかしスポーツは、少子化により平成十年頃から年々減少し今日ではアルペン競技のみとなっています。現在の活動は九月から人工スキー場でのトレーニングから始まり十一月からシーズンを迎える五月の連休までスキーを続けています。スキーは天候に左右されるスポーツです。晴天時は爽快ですが、吹雪等の悪天候の際は、精神的にも肉体的にも非常に厳しい時もあります。団員は日に日にたくましくなっています。近年県内各種大会で優勝者が出始めました。肘折スキースポーツ少年団は何よりも「元気で礼儀正しい人間育成」を目指し、またいつの日か多くの団員が入団し、再び全国で活躍できることを願って頑張っています。

# 大塚スポーツ少年団(川西町)

代表指導者 菅井 新一

大塚スポーツ少年団は、昭和四十二年に創設され、柔道・野球・ソフトボールの三種目で現在活動しております。団員数は四十三名入団、指導者は三十一名です。昨今児童数が減少し、団員数も減少しておりますが、各指導者は地区外の児童に入団して頂き交流を図るなど、努力しております。

年間のイベントとして、入団式と新年鏡開きを団員全員で行います。又、団ごとに焼肉パーティーや六年生を送る会等実施しています。練習会や試合だけでなく、社会教育の充実も図っております。

種目別の少年団の特徴としては、柔道スポーツ少年団は、町の体育館を利用して練習を行っており、中学生との交流が盛んです。

野球スポーツ少年団は、年に一度神戸大会に遠征し、多くの団員数が参加しております。

ソフトボールは、女子だけのスポーツ少年団になります。県大会で優勝するなど、近年は好成績を収めております。

最後になりませんが、競技技術だけでなく、礼儀や社会教育を交えながら団員、指導者共々成長し、今後活動を展開して参ります。



# 遊佐町柔道スポーツ少年団

代表指導者 伊藤 武志



遊佐町柔道スポーツ少年団は、昭和四十七年結成、宮田柔道スポーツ少年団と昭和五十年結成の藤岡柔道スポーツ少年団が、遊佐町柔道の更なる発展のために、昭和六十年に一緒になり今に至っています。現在の団員構成は、一年生男子一名、四年生男子二名、女子一名、六年生男女各一名ずつの計六名の少人数で頑張っています。

遊佐町には町出身の大先輩で、伊藤徳治さんという、全日本柔道選手権大会準優勝(準優勝三回、三位二回)を果たした偉大な柔道家が居り、遊佐町柔道連盟主催で、庄内の柔道発展のための大会、今年で三十回と成った、伊藤徳治杯争奪少年柔道大会を行っています。私達指導者も少しでも徳治さんに近付けたらという思いで一緒に稽古に励んでいます。指導方針は、利根的目先の勝ちにとらわれず、長い目で子供達を育て長所を伸ばし、色々な運動を経験して、身を動かす事、スポーツをする事、最後まで良いので柔道を好きになってほしい思いで指導しています。子供達の心身の健全な人格形成育成をして行くために、「正しい柔道」「心」「技」「体」のバランスの取れた社会人と成り、一緒に柔道の良さを教えてほしい指導者として、帰って来てほしいと思っています。

# 団員の夢

## ぼくの夢



宮宿男子  
ミニバスケットボール  
スポーツ少年団(朝日町)  
菊地 哲平

ぼくがバスケットボールを始めたきっかけは、お兄ちゃんがバスケットボールをしていて「カッコいいな」と思ったからです。

小学校二年生の夏からスポ少に入団して四年四か月がたちました。

始めたばかりのころは、顔にボールがぶつかるようで怖くてボールをうまくキャッチできませんでしたが、学年が上がるごとに少しずつうまくキャッチできるようになりました。

六年生になってからは、チームのキャプテンとしてチームをまとめ、県大会出場を目指してみんなで練習をがんばってきました。でも、県大会予選では、残念ながら一回戦で負けてしまいました。とてもくやしかったです。ぼくは中学校にいてもバスケットをやりたいので、基礎練習をがんばり、体力もつけていきたいと思います。そして中学校では、全国大会に出場できるようにがんばります。

最後にぼくの将来の夢は、NBAでプレーすることです。その夢をかなえるために心も体も鍛えていきたいと思います。

## 「強い選手」になりたい



真室川バドミントン  
スポーツ少年団  
名村 怜

わたしがバドミントンを始めたきっかけは、二人の姉がやっており、「カッコいいなあ」と思ったからです。

「真室川バドミントンスポーツ少年団」(団員十三名)には、小学校三年生から入団しました。

コーチの先生から教えていただいたことを素直に聞き、少しでも強い選手になれるよう「目で見て」「耳で聞いて」「体全体」にしみこませる練習の繰り返しです。

二人の姉が、中学・高校でそれぞれ選手をしていることから、休みの日などは、姉からも練習相手になってもらいながらシングルスを教えてもらっています。

強い選手を目指して、日頃の練習も「シングルス戦」「ダブルス戦」の両方を意識しながら頑張っています。

自分一人が強くなっても、みんなと戦う団体戦では勝てません。チームのみんなが、一つにまとまらないうちに勝つことができないということ。本当の意味で強いチームになれるようチームの仲間と交流し理解を深めながら、残された大会で悔いの残らない試合ができるよう全力でプレーしていきます。

最後に、「真室川バドミントンスポーツ少年団」で教わったことを忘れずに自分の夢である「強い選手」になれるよう努力を怠らないで頑張ります。

## 新しい技を目指して！



長井市体操  
スポーツ少年団  
安達 富葵

わたしは、器械体操をしています。

体操をしていて一番うれしいのは、今までできなかった技が、少しずつできるようなることです。わたしたちが、少しでも上手になるようにと、指導の先生方、先輩が、アドバイスをします。そうすると、がんばろうという気持ちわいてきます。なかなかできない技でも、繰り返し練習することができます。いっぱい練習して、やっとならないうようにになると、うれしくてたまりません。そして、よし、もっと難しい技もがんばろうと思います。

でも、長井市体操スポーツ少年団には跳馬や床運動のためのタンプリングがなく、指導の先生方が、手作りしてくださったものを使っています。平均台や段違い平行棒も古いものですが、ずっと大切に使っています。

昨年、東京で世界体操を見てきました。ロシアのビクトリアコマア選手の演技が心に残りました。難易度の高い技を美しく、次々に演じていて、おどろきました。

わたしは、コマア選手の足元にもおよびませんが、先輩が大切にしてくれた器具を受けついで、練習をがんばり、見ている人の心に残る演技ができるようになりたいです。

## ぼくとサッカー



三川SC  
ジュニアサッカー  
スポーツ少年団  
菊地 凌人

ぼくは、三年生の時に、三川SCジュニアサッカースポーツ少年団に入りました。

ぼくが、サッカースポ少に入ろうと思った理由は、二年生の時に、学校で友達とサッカーをしていると楽しくなり、サッカーが好きになったのがスポ少に入るきっかけでした。

両親にたのんで入団したのは、三年生の時でした。練習では、ミニゲームが楽しかったし、リフティング練習は五十回を目標にしてがんばりました。

六年生になった今年は、キャプテンになり、チームのまとめ役として、がんばらないといけないと思い、スタートしました。しかし、チームは思うようにいい結果は残せませんでした。キャプテンとしてチームをまとめるために、声かけをがんばったり、かんとかから日頃言われている「自分で考えて行動」を心がけて、練習をするようになったら、最後の大きな大会、JAC杯で準優勝することができました。

今のぼくの夢は、中学校でもサッカーを続けて、早く試合にでれるようにしたいです。そして、最終的にはプロのサッカー選手になって、海外でプレーしたいと思います。そのためにも、日々の練習でも、全力でとりくんでいきたいです。

# 大空に翔る

## 第19回山形県少年少女スポーツ交流大会 開催種目 会場一覧 参加者数一覧

No.	種目	開催期日	会場	参加者数
1	柔道	10月2日	山辺町武道館	226
2	剣道	10月2日	尾花沢市体育館	463
3	バスケットボール	10月2日	酒田市八幡体育館 庄内町総合体育館 遊佐町町民体育館 鶴岡市藤島体育館 鶴岡市羽黒体育館 鶴岡市櫛引スポーツセンター	877
4	サッカー	10月2日	山形県総合運動公園 サッカー場・ラグビー場・第2運動広場	469
		10月9日	鶴岡市小真木原公園東・南多目的広場	
5	軟式野球	10月1日	荘内銀行・日新製菓スタジアムやまがた 中山公園第二野球場 山形県総合運動公園野球場 山辺町町民野球場	344
6	バレーボール	9月25日	山辺町民総合体育館 中山町総合体育館 山形市立第六小学校体育館	485
7	卓球	10月9日	酒田市体育館	208
8	バドミントン	9月25日	長井市置賜生涯学習プラザ	225
9	ソフトボール	10月1日	鶴岡市東部運動広場 鶴岡市西部公園多目的グラウンド	127
10	ソフトテニス	10月1日	酒田市光ヶ丘テニスコート 酒田市国体記念テニスコート	312
11	陸上競技	10月2日	山形県総合運動公園NDソフトスタジアム	539
12	体操	10月2日	酒田市国体記念体育館大アリーナ	101
13	空手道	10月2日	山形県立天童高等学校体育館	176
14	レスリング	10月2日	山形県立山形南高等学校レスリング場	51
15	相撲	10月1日	酒田市営相撲場	30
16	トランポリン	9月25日	上山市体育文化センター	71
合 計				4,704

### 県少年少女スポーツ交流大会

「べにばな国体」開催を記念した山形県少年少女スポーツ交流大会は今年で第十九回を数え、十月二日を主会期に、県内各地区三十会場において十六種目、四、七〇四名の参加を得て開催した。

### 認定員養成講習会

日本スポーツ少年団指導者制度が変わり五年目、県内の七会場で開催しました。自宅学習二十一時間、集合講習十一科目十四時間の講習会後に検定試験を実施。

また、この認定員講習会を終了し、「認定員」資格を認定された指導者に対しては、公益財団法人日本体育協会公認「スポーツリーダー」の資格も与えられます。今年度の受講者三九八名の内、一七四名を認定し、二二二名を認定保留者となりました。なお、保留者については、二十四年度登録することにより認定されます。

### スポーツ少年団認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会

受講者 398名 合格者396名 不合格者2名

地区・コース名	期 日	会 場	受講者	認定者	保留者
村山(東南)	11月26日(土)～27日(日)	山形市スポーツ会館・江南体育館	68	22	46
村山(西)	12月10日(土)～11日(日)	大江町中央公民館・体育センター	54	24	30
村山(北)	11月12日(土)～13日(日)	東根市民体育館	86	20	66
最上	11月5日(土)～6日(日)	鮭川村中央公民館	53	13	40
置賜	10月29日(土)～30日(日)	川西町農村環境改良センター	29	20	9
庄内(田川)	11月12日(土)～13日(日)	鶴岡市朝陽武道館	44	42	2
庄内(飽海)	10月15日(土)～16日(日)	酒田市武道館	64	33	29
合 計			398	174	222

### 第九回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会

平成二十四年三月二十四日から二十七日までの四日間、本県鶴岡市において東北では初めて「第九回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会」が開催されることとなった。

平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災の影響により、当初開催を予定していた宮城県での開催が困難となり、「是非、同じ東北であり、隣接県でもある本県で開催したい」との県及び鶴岡市スポーツ少年団関係者の強い思いで代替開催に名乗りを上げ、急遽本県での開催が決定した。その後、関係者の多大なるご理解とご協力のもと十月十四日に山形県実行委員会を設立し、鋭意大会開催準備を進めている。

#### ◆大会の概要◆

女子は各都道府県より一チームと開催地より一チームの計四八チームが予選のリーグ戦及び決勝トーナメント方式で、男子は全国九ブロックより代表一チームと開催地より一チームの計一〇チームがリーグ戦及び決勝戦を行い、バレーボールを通じて団員相互の交流を深める。

【期日】《女子》三月二十四日～二十七日  
《男子》三月二十四日～二十六日

【会場】鶴岡市小真木原総合体育館  
鶴岡市藤島体育館  
鶴岡市羽黒体育館  
鶴岡市櫛引スポーツセンター

#### 【参加者】

《女子》四八チーム 五九五名  
《男子》四六四名・指導者／一三一名  
《男子》一〇チーム 一一九名  
《団員》九三名・指導者／二六名

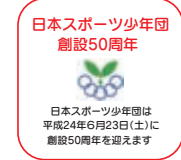
《関係者及び応援者等》千名程度  
《山形県参加チーム》

《女子》富士見スポーツ少年団(酒田市)、藤島バレーボールスポーツ少年団(鶴岡市)  
《男子》櫛引男子バレーボールスポーツ少年団(鶴岡市)

### 公益財団法人日本体育協会 日本スポーツ少年団創設五十年

「二人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する」、「スポーツを通じて青少年のこころとからだを育てる」ことを理念に掲げ、我が国で初めてとなる地域社会に組織する少年スポーツ団体として、一九六二年(昭和三十三年)六月二十三日に、日本スポーツ少年団が創設された。

その後、青少年とスポーツを愛する多くの方々の英知と努力の結晶により、創設期、再編期における様々な困難を克服し、現在の日本スポーツ少年団が構築され、我が国最大の青少年スポーツ団体へと発展し、二〇一二年(平成二十四年)六月二十三日をもって創設五十周年を迎える。



#### ◆創設五十周年記念事業の概要◆

この歴史ある創設五十周年の慶事を、全国の団員・指導者及び多くの関係者が一堂に会し盛大に祝する。

【記念式典】 期日 平成二十四年六月二十三日(土)  
会場 品川プリンスホテル(東京)  
内容 祝賀式典・記念シンポジウム  
【記念誌発行】  
【功労者・優秀団表彰】

県の動き

表彰

○生涯スポーツ優良団体表彰  
葉山剣道スポーツ少年団(村山市)、金山スポーツ少年団(金山町)  
○日本スポーツ少年団顕彰  
○市区町村表彰 西川町スポーツ少年団  
(表彰指導者) 遠藤啓一(寒河江市)、鈴木実(鶴岡市)、兵藤清彦(酒田市)

○山形県スポーツ少年団表彰  
三月二日 山形県スポーツ会館において開催。各市町村本部長、事務担当者が出席。優良団十団、功労者十名を表彰。(予定)

■各級スポーツ少年団資格取得者  
○認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会 七コース開催  
受講者三九八名(内一七四名認定)

各種事業

○シニアリーダースクール  
八月十一～十五日 静岡県  
(団員) 伊藤瞭汰(鶴岡市)

○全国指導者研究大会  
六月十九日 東京都 二十五名参加

○全国リーダー連絡会  
十月一～二日 東京都

(指導者) 廣川由香(小国町)、(リーダー) 山本航(鶴岡市)

○北海道・東北ブロックリーダー研究大会  
十月八～十日 北海道  
(指導者) 上野和義(鶴岡市)、(リーダー)

山田都茂美、工藤直美(白鷹町)、山本航、笹原瑠偉(鶴岡市)、大場智貴(米沢市)、大泉美紗、佐竹恵(中山町)  
○全国スポーツ少年大会  
八月五～八日 岐阜県  
(指導者) 佐藤久樹(鶴岡市)、(団員) 齋藤優太、五戸友晴、五十嵐柚衣、鈴木麗永、本間至、佐藤優、佐藤悠乃、渡部羅夢(鶴岡市)

○日独同時交流派遣  
七月二十日～八月十一日 二十三日間  
(団員) 大泉美紗、佐竹恵(中山町)

○全国スポーツ少年団競技別交流大会  
【サッカー】第三十五回 八月一日～八月六日 静岡県 S・F・C ジェラール

(山形市) 【ホッケー】八月五～八日 富山県 小松ホッケー(川西町) 【バレーボール】(第九回) 三月二十四～二十七日 鶴岡市 富士見(酒田市)、藤島バレーボール(鶴岡市)、榎引男子バレーボール(鶴岡市) 【剣道】(第三十四回) 三月二十五～二十七日 山梨県 大泉剣道、朝陽剣道、黄金剣道(鶴岡市)

○東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会  
【軟式野球】七月二日 新庄市 天童南部小リトルファイターズ(天童市)、日新レッドスターズ(新庄市) 【サッカー】七月三十日～八月一日 秋田県 松原サッカー(酒田市)、榎引JSC、Quinto 鶴岡FC(鶴岡市) 【柔道】十二月三～四日 秋田県 立川柔道(庄内町)、高橋道場(山形市) 【ミニバスケットボール】三月十日～三月十一日 秋田県 鈴川ミニバスケットボール(山形市)、温海ミニバスケットボール、羽黒

(鶴岡市)、中山ミニバスケットボール(中山町)、米沢東部ミニバスケットボール(米沢市)、浜田ミニバスケットボール(酒田市)  
○県スポーツ少年大会兼ジュニアリーダースクール  
八月一～三日 山形県金峰少年自然の家において開催。二十五名の団員をジュニアリーダーとして認定。少年大会の部五十八名の団員、指導者三十四名、リーダー十四名参加。

○市町村スポーツ少年団・スポーツ安全協会研修会  
三月二日 山形県スポーツ会館において開催。各市町村本部長・事務担当者が参加。

●編集後記●

スポーツ少年団は、まもなく創設五十周年を迎えますが、少子化による団員確保、リーダーの養成指導者の拡大と資質の向上等、様々の課題を抱えています。

今回の特集記事は、山形県スポーツ少年団前本部長の梁瀬吉弘氏にスポーツ少年団に関してご提言戴きました。また、酒田市で開催されました県指導者育成母集団研修会の内容を掲載しました。

団員を心身共に健全に育成するには、指導者のスポーツの理念に基づいた指導のあり方が最重要と考えます。指導者自らが更に自己研鑽に努め、輝かしい未来のある団員にスポーツの楽しさと夢と希望を授けてくださるようご期待申し上げます。

特集記事は、今後の指導上の一端にして戴ければ幸甚です。

編集委員

委員長 志村 忠夫  
副委員長 寒河江寿樹  
委員 安野 重幸、高橋 達之、三上 重幸  
瀧澤 孝次、佐藤 利浩、佐藤 俊次  
廣川 由香、小関 雄一、高砂 晃



傷害保険 賠償責任保険 突然死葬祭費用保険  
**スポーツ安全保険**

インターネットからの加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

法人 **スポーツ安全協会** 山形県支部 (山形県体育協会内)

〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号 TEL 023-642-8321 電話受付時間午前9時～午後5時(土、日、祝日を除く)

保険の詳細内容、資料の請求は、<http://www.sportsanzen.org>  
●資料請求は、インターネットより受付しております。

(引受幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社 (担当課) 公務第2部公務第1課  
TEL 03-3515-4133 (平日9:00～17:00)  
(共同引受保険会社(平成23年4月予定)) ※予告なく変更となる場合があります。  
あいおいニッセイ同和 東京火災 損害少年バド 大東火災 東京海上日動  
日 新火災 日本興産損保 富士火災 三井住友海上  
平成23年1月作成 10-T-08374